や ぶ な べ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌　　名	やぶなべ
号/発行年/頁	17 / 1971 / 32-33
タイトル	研究発表を見て
著　者　名	青木司

自然を見つめる やぶなべ会（青森）

研究発表を見て

1年　青木　司

今年もまた例年通りに工業高校で理科研究発表大会が開かれようとしていた。時は，理科一大会の日の前日つまり，９月23日午後，ほかならぬ僕とタケだけがひっそりかんとした生物室に残っていた。２年生は修学旅行で今はいない。タケは熱心に溶存二酸化炭素の量を測っていた。しかし目もりの矢がなかなか止まらない。大会を明日に控えこのようなことをしていてはとてもじゃないが間に合わないと思ったのか急にでたらめなデータを書き始めた。（ああ，これで終わりだ。）しかしこれは仕方がないことであった。この様にして大会の前日だけで調査した「ミジンコの日周活動について」の結果をまとめたのだ。（まさに余裕を持ちすぎた感じである）さて大会の日，僕は集合時間の８時30分に15分おくれて工高に着いた。控室の中にはイク子etc がいた。（タケはまだ来ていないようだった。）大会は10時からだつたそうである。９時，９時15分，９時30分まだタケはこない。遅い。僕らはだんだん不安になってきた。９時40分，きた，タケがきたのだ。どうやら徹夜をしてグラフ，その他を書いたらしい。大会には９つの研究発表（生物）が行なわれるらしい。僕らはラストである。（僕らといっても発表するのはタケである）７番目の発表が終わったので僕とタケは発表の準備をした。８番目が終わりいよいよ発表の時が来た。タケは相当あがっているように見えた。１つの発表の持ち時間は10分である。タケは発表した。いまやだれもがタケの目を見守っている。発表は終わった。審査員の杉山先生がこういつた「お手上げですね。」この７字のことばには，なにか感じさせる物があった。これで全部の発表が終わりあとは結果を待つばかり。残念ながら入賞の３位までにはいれなかった。いやここで「残念」というのはおかしいだろう。今年の大会について審査員がおっしゃられた。「高度なものが多すぎる。もっと身近なものを地道に研究せよ。」……まさにその通りだと思つた。我々の研究がそうなのだ。より高度なものを研究しようとすることは我々にとってはかえっていいかげんなデータがでてきて結局はむだなことをしているのだと僕は思った。今回の研究が失敗した理由はまだほかに沢山ある。先にも述べたように高度な研究，余裕の持ちすぎこのことは僕がこの部に入部してからなおらないことで部の欠陥であると思う。それからいいかげんな研究，怠慢などがあげられる。これからは僕たち１年が主体となっていかなければならない。最後にこの大会を見て一番強く感じたことは研究はけっして楽なものではないしあまいものでもない。つらくきびしいのである。そうだ世の中はあまくないのだと……。　エピローグ……　タケと僕はすでに来年の計画を立てている，また部のガンである余裕の持ちすぎ，その他のいろいろな問題をなくするために，来年こそ全力でぶつかることを誓っている。

第１位	五所川原農林高校	メダカの走性の遺伝
第２位	八戸電波工業高校	新井田川の汚濁と生物の関係について
第３位	弘前中央高校	ハツカネズミの腹水における遊離細胞

	の染色体の観察
三戸高校	城山公園の野鳥の単箱利用
三戸高校	能原川の魚類
五所川原農林高校	エゾマイマイカブリの染色体
弘前中央高校	ハツカネズミの毛色の遺伝について
弘前中央高校	ハツカネズミの系統保存について
青森高校	蔦沼における動物プランクトンの日周活動